

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ



大学名 湘南医療大学
所属 薬学部 医療薬学科
名前 竹内 尚子
作成日 2023年9月28日

1. 教育の責任

湘南医療大学は、学校法人湘南ふれあい学園の理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を目指すとおりとし、この理念実現に向けて、医療・福祉の人材育成を通して広く社会に貢献することを実践している。薬学部医療薬学科の教育目的は「高度な知識と技術を基盤に、豊かな人間性を育み、創造的、かつ実践的な教育研究を通じて、問題を発見し、解決する意欲と能力を備え、自ら考え、行動できる人材の育成」である。

薬学部の教員は学生に対して専門的な知識や技術を修得させるだけでなく、医療人としての責任感・使命感・倫理観を培い、多職種協働のチーム医療や地域の健康増進や公衆衛生に貢献できる薬剤師を養成する必要がある。そこで私はこれまで臨床の現場で働いてきた経験から、セルフメディケーション理論や地域の保健・医療・福祉が一体となって取り組んでいる高齢者医療・在宅療養について、今後担当する予定である。

現時点では、卒業プレ研究や実習のサポートを担当している。

担当科目

早期臨床体験実習

実務実習事前学習Ⅰ

薬学総合プレ研究

【今後の担当科目】

コミュニティファーマシー

実務実習事前学習Ⅱ、Ⅲ

セルフメディケーション

地域包括医療論(在宅利用を含む)

2. 私の理念・目的

2-1 私の理念

私は大学病院や薬局の薬剤師として長きにわたり、臨床現場に身を置き、経験を重ねてきた。その経験を活かし、教科書の内容を現実にある具体例とともに示すことを意識している。具体例があることで薬学教育モデル・コアカリキュラムの到達目標(SBOs)への理解は深まる。このような事例経験は、学生にとり、その時点での理解が深まるだけでなく、学生が薬剤師となった際に患者に理解してもらうことの重要性を知り、さらに理解してもらうために必要なことを知るプロセスとなると考える。

また学生一人一人と向き合うことを意識している。特に低学年では高等学校教育から大学教育への変化に戸惑いを見せる学生もいる。急かすことなく、質問をまとめられる時間、発言したいことを言葉にできる時間を持つことを意識している。質問や発言を求められることの繰り返しに

より、積極性が増すとともに他人任せにしない責任感や倫理観が醸成されていくと考えている。

さらに薬剤師は医薬品を扱っていることからコミュニケーション能力は不要と考えられがちであるが、「対物から対人へ」と業務が変化しており、患者やその家族、多職種との円滑な関係性構築とチーム医療の推進のためにもコミュニケーション能力も学んでほしいと考えている。

2-2 理念をもつに至った背景

私は病院薬剤師、薬局薬剤師と経験する中では、精神医療・精神薬理に重きを置いて臨床業務を行ってきた。精神科受診に対する壁は 2000 年以降かなり低くなったと言われているが、未だに他の疾患に比べれば高いと言わざるを得ない。疾患特性から患者は遠慮しがちで、自分の病状について言葉で表現できないこともある。そのような患者に接する際にはコミュニケーション力を持ち、話してもらうことを少しずつでも増やしていくことが大切である。

患者との会話が成立しない場合、医薬品情報を提供できないだけでなく、情報提供者の自信喪失につながることもある。患者やその家族との会話が成立することは、当たり前のことではなく、双方努力し、相互に信頼した結果であることを経験してきた。このことは学生も学ぶべきと考えている。

また精神科医療はチーム医療が原則で、薬剤師も医師、看護師、精神保健福祉士などとの連携は必須である。薬物治療に関する薬剤師の考えを他職種と共有する手段・コミュニケーション術は必要と感じている。さらに他職種の考える患者にとっての最適医療を知り、考え方の違いを理解したり、何を優先するか考えたりすることは薬学生にも必要な経験と考える。

3. 教育の方法・戦略

3-1 薬局機能別の薬剤師の役割、薬剤師に求められる法的責任について理解し、プロフェッショナルとしての行動力・判断力を培う。

医薬品・医療機器等法で定められている薬局には専門医療機関連携薬局と地域連携薬局の 2 種類があり、求められる役割は異なる。また開設者は薬局に管理薬剤師を置かなければならず、管理薬剤師には開設者とともに責任が求められる。事前実務実習では、薬局を取り巻く様々な法律について実習を通して理解することで、薬剤師としてのプロフェッショナルリズムを学ぶ。実習の流れは以下のとおりとする。

1) 事前レポートの提出とそのフィードバック

グループワーク(教えあい授業)では薬局に関する専門用語から複数選定し、事前準備として下調べとレポート提出を求めるが、実習が始まる前にはコメントを付けてフィードバックする。

2) 実習での教えあい授業

グループワークの流れ:

- ①グループ分け(多くても 8 名まで)
- ②司会・書記・発表者・質問者のいずれかの役割を担う

- ③すべての課題に対する個人検討:全てのテーマの最低限の知識を学ぶ
- ④グループのテーマに関する検討(グループ毎に異なるテーマで検討)
テーマは事前検討した用語が登場する具体的症例・事例とし、実際に薬局で対応する可能性のあるものとする。
- ⑤プレゼンテーション:発表内容のまとめ方、色使いなどプレゼンテーション能力を高める。
- ⑥質疑から得た情報を含め、発表内容の修正:
個人の持ち帰りとして後日、レポート提出として評価することも可能
- ⑦教員より最終まとめ

3-2 臨床薬剤師に必要なコミュニケーション能力を学ぶことで、安全で質の高い医療・保健・介護の実践につなげる。

疑義照会事例や服薬指導のロールプレイを繰り返すなど、繰り返しの学びはコミュニケーション上達の第1歩となる。コロナウイルス感染症の流行により、人との交流が大幅に減少し、PCやスマートフォンで意思疎通をすることが当たり前となっている学生には、様々な症例について、数多く練習することが必要である。以下のポイントでグループワークを行う。

- ①症例に関する知識を習得したうえで、高齢者に聞き取りやすく話す、専門用語をかみ砕いて説明するなどを実践練習によって培う。
- ②ロールプレイでは薬剤師役だけでなく、患者役を担当することで、患者の考え方を知ることができる。
- ③薬剤師役、患者役、評価者役の3人1組で、3回転させ、全ての役を担当することを1クールとする。
症例検討(3分)・ロールプレイ(3分)・フィードバック(1分)とし、10分以内で1プレイを実施し、1クールは30分で実施する。その他の症例でも同様に繰り返す。
- ④疑義照会の実習ではさらに医師役も加わり、4人1組で4回転させる。

4. 学習成果

4-1 学生評価

- ・プレ研究において、薬局薬剤師が取り組んでいるトレーシングレポートのフォーマット作成を実施したところ、学生からは薬局の業務でこのようなことを行っているとは知らなかった。知ることができて薬局の業務に興味を持てたとのコメントがあった。
- ・添付文書や医療機関の検索など、知らない検索機能を知ることができたとのコメントもあった。

4-2 自らの成果

- ・プレ研究では、データ検索をしながら多くの病院のホームページ(以下 HP)を見ることを想定してテーマを示したが、絞り込み検索を行っており、学生のICT作業に対する姿勢を知ることができた。

5. 改善のための努力

5-1 講義の進行方法:

- ・講義の中で、理解しなければならないことと、法律条文など必ず覚えなければならないことを明確にする。
- ・講義の中に、穴埋め小テストなども組み込み、学生自身で理解度を把握できるようにする。

5-2 実習での積極性を保つ:

- ・グループワークが多く、他人任せにする学生も出てくる。グループワーク前に個人検討の時間を持つ。
- ・ロールプレイを数多く実施する。その際、複数の役割を全員が担当できるようにグループ人数を考慮する。

6. 今後の目標

6-1 短期目標

- ・事前実務実習(3年後期から4年全期)、コミュニティファーマシー(4年後期)
OSCEに係る調剤実務に係る手技実習以外の担当実習については、レクチャー中心となるが、演習やグループワークを組み入れたものとする。
グループワークは前述のとおりとする。演習については、90分枠の中で2回程度組み込み、習得度を自覚してもらおう。

6-2 長期目標

- ・精神科医療に関する教育の強化
薬学部で教育する代表的な8疾患の一つである精神疾患について、病院や薬局で指導できる薬剤師は少ない。実習に送り出す側として地域の社会人教育を実施していきたい。

【添付資料】

シラバス